

医療安全管理部

1. スタッフ構成

- 近藤 裕司;医療安全管理部長
- 山本 英一;医療安全管理副部長
- 高石 裕二;管理次長
- 越智 祐二郎;管理課長
- 松尾 有記;チーフリスクマネジャー
- 森山 昭子;リスクマネジャー
- <医局>
- 佐藤 公一、芝 陽介
- <看護部>
- 岡本 奈美、濱田 季美、河野 美晴、岩本 悟志
- <コメディカル>
- 久枝 正実、木口 大輔、兵頭 直樹、烏谷 政和、佐藤 智、和田 彬、三ツ井 照代
- <患者相談室>
- 川原 紅美
- <事務局>
- 日野 純子、川本 亜希子
- <愛媛ホスピタルパートナーズ>
- 岡田 和也

2. 運営方針

患者さんが安心して医療を受けられるよう安全を確保し、信頼関係を構築します。

2022年は患者誤認の低減とインシデント報告件数3,000件以上の維持を目標に挙げ、活動しました。

3. 実績

コロナ禍であることや働き方改革を踏まえ、必須研修の実施はe-learningを活用し、全職員で共有することを継続しました。薬剤インシデントの低減に関しては、医療安全推進チームと協力し合い、内服管理マニュアルの周知や内服に関するインシデント事例分析を連携ナース会で実施しました。転倒・転落については多職種で構成された離床サポートチームが活動し、転倒事例の分析や転倒予防タイムズの配信を継続しました。

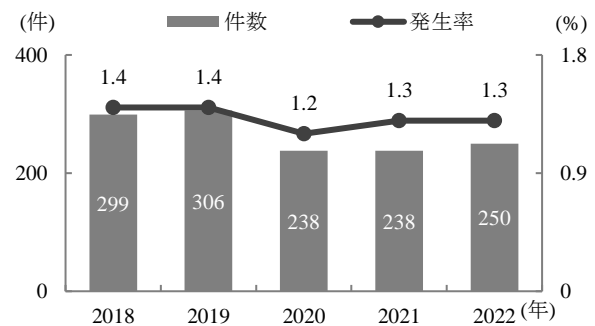
(1) 転倒・転落のインシデントを低減する

転倒・転落発生数は250件と、昨年238件より増えましたが、3bの事案は8件から6件と減少し、目標としていた「有害事象の転倒・転落の低減を図る」は達成しました。多職種チームで構成されたメンバーの強みを活かし、転倒8事例をそれぞれの視点で分析し、結果を当該部署へフィードバックしました。さらに転倒・転落アセスメントシートの記載の抜けに対する注意喚起や患者の背景や状態にも目を向けることが大切であることを全部署へ提言しました。転倒予防には患者さんをしっかりとアセスメントし関わるのが重要で

あることは認識できたと考えます。

危険予知力や気づく力を養うための気づき大賞は2年目となり1回目は11部署と個人9名、2回目は18部署と個人4名の応募がありました。様々な視点での気づきがあり、楽しみながら気づく力を養うことができていると考えます。

■ 転倒・転落件数および発生率



(2) 薬剤インシデントの低減を図る

内服管理について医療安全推進チームが主となり、連携ナース会で内服管理マニュアルの改訂箇所の伝達や一人双方向型ダブルチェックのデモンストレーションを行い、部署でも再周知するよう伝達しました。また、チームのラウンドにより連携ナースの支援にも力を入れました。そして、内服に関するインシデント分析は過剰と重複の2事例を連携ナース会で実施しました。部署でも内服管理に関する目標を挙げ、低減に向けた活動に取り組むことができました。結果、内服のインシデント報告数593件(3.0%減)、無投薬は155件(12.4%減)と低減できました。

注射のインシデント報告数は393件(8.9%増)、無投薬58件(3.4%減)でした。医師への働きかけとして点滴・注射指示の時間入力調査については今年度も実施し、入力実施率は44%(2%減)と、ほぼ横ばいでした。医師が投与時間を入力することで「患者スケジュール」「注射カレンダー」「注射処方箋」に反映されるため、さらなる活動の工夫が必要です。

薬剤の最終実施は看護師が担うことがほとんどです。内訳で一番多い無投薬は、指示を確認するタイミング・5Rの確実な実施ができるよう事例を深く読み込み、対策を講じる必要があります。

(3) 研修参加率のアップ

必須研修は一定期間の間に自分の都合に合わせて研修受講ができるe-learningを活用した結果、前期・後期ともに受講率は99%でした。2023年は受講率100%を目指し未受講者へのアクションを考え、全体へのアナウンスの強化も実施したいと思います。

その他トピックスとしては、関連部門の安全に特化した研修と救急科医師による呼吸に関する研修を開催しました。必須研修ではありませんが、重要な内容が含まれているのでそれをいかに部署へ周知させることができるか考える必要があります。

(4) 患者誤認の低減について

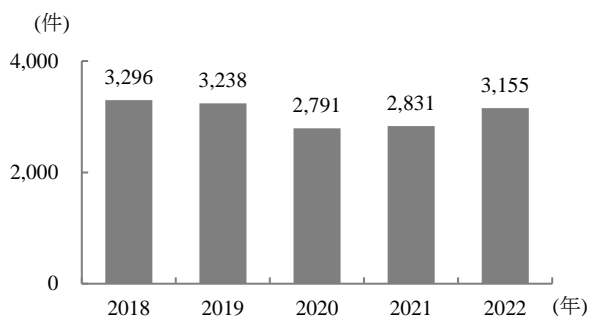
患者誤認は87件と、2021年より2件増加しています。その背景には研修医の0レベルではありませんが、複数患者カルテを開いていたことで患者間違いのカルテを操作する件数が増えていること

が要因の一つです。今年は患者誤認で上位を占める検査・配膳・書類を低減できる年 3 回、患者誤認防止強化月間を設けました。結果、検査 11 件(8 件減)、配膳 7 件(3 件減)、書類 13 件(1 件減)となりました。「医療者から名前を名乗らない」「照合確認の徹底」を伝達してきましたが、習慣化には至っていないのが現状です。患者確認は医療安全の基本です。患者さん自身に名前を名乗ってもらう患者参加型の確認と、医療者が患者情報を指さし呼称で照合し確認する行動が院内全体で実施できるよう対策を講じていきます。

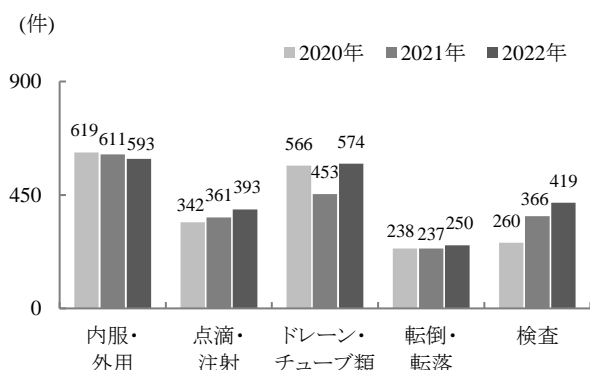
(5) インシデント報告件数について

2022 年は 3,154 件と、目標としていた「3,000 件以上の維持」を達成できました。医師の報告件数は 176 件(7 件減)、研修医 295 件(1.7 倍)でした。研修医については修了要件として年間 10 件のレポート提出が必須項目になったことで記載が増えています。2 回程度はレポートの傾向をまとめ、情報共有のためにフィードバックはしましたが、書くことのみが目的となってしまう、5W1H で書くことや本来のレポートの意義が十分伝達できたとはいえません。臨床研修評価機構からは、医師からの報告 10%程度必要と言われていますが、5.6%に留まっています。研修医への報告の義務化を推奨するのであれば指導医も積極的にインシデント報告を記載するよう働きかけていくことが大事です。インシデント報告は前向きな報告であり、医療安全への姿勢が根付いていくものです。医師各々が前向きに捉えられるように引き続き取り組んでいきたいと思います。

■ インシデント発生件数

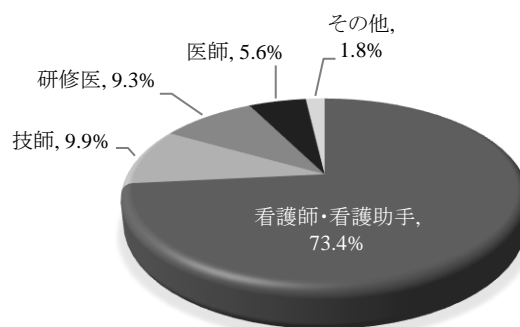


■ インシデント発生上位 5 項目



■ 職種別報告件数

職種	件数	職種	件数
看護師・看護補助者	2,316	臨時職員	9
医師	176	理学療法士	7
診療放射線技師	140	管理栄養士	1
薬剤師	92	作業療法士	6
研修医	293	言語聴覚士	0
SPC職員	44	社会福祉士	1
臨床検査技師	55	視能訓練士	3
臨床工学技士	12		



(6) 医療安全管理部の活動全般について

医療安全ラウンドは、PHS やモニターの時刻管理・救急カート・麻薬管理に重点を置き、実施しました。医師の時刻管理においては、ラウンドをすることで PHS の時刻を合わせることの必要性を理解することができ、「時刻があっている」前期 39%が後期には 60%に上昇しました。ラウンド内容をさらにブラッシュアップし、活動を継続していきたいと思います。

今年は新しい取り組みとして、9月17日の「世界患者安全の日」にイベントを開催しました。これは愛媛大学医学部附属病院の医療安全担当者より共同開催の誘いがあり実現したことです。病院のライトアップやオレンジマスクの使用、ポスターの掲示により全職員が「世界患者安全の日」について知る・考える機会となり、患者さんにも病院の取り組みを知っていただく機会となったと思います。これからも安全への意識が高まるよう工夫をしながら活動していこうと考えます。

■ 医療安全研修会

開催日	研修名(テーマ)	対象	参加
4月4日	転入・新規採用職員オリエンテーション研修 令和4年度新規採用職員研修 医療安全管理 チーフリスクマネジャー 重藤美幸	4月新規採用者、研修医、 新規採用看護職員	医師:52名、 看護師:64名、 メディカルスタッフ:10名
4月25日	新規採用看護職員第II期研修 安全確保の技術(患者誤認防止) 医療安全推進チーム 池内紅美	新規採用看護師、既卒 (講師、担当者含む)	69名
5月25日	新規採用看護職員第II期研修 移動援助技術と転倒予防 離床サポートチーム リハビリ部門:佐竹敬太、清水麻美 看護部門:稲田富美香、河野美晴、金並史子、平田由香理、 岩田美紀 リスクマネジャー 森山昭子 チーフリスクマネジャー 重藤美幸	新規採用看護師、既卒 (講師、担当者含む)	71名
5月31日	新規採用看護職員第II期研修 薬剤関連リスク 安全な与薬のために リスクマネジャー 森山昭子	新規採用看護師、既卒 (講師含む)	63名
6月21日～ 8月31日	(e-learning)医療安全必須研修「医療安全3つの柱」 講師:上尾中央総合病院 特任副院長 長谷川剛	医師、看護師、 メディカルスタッフ	1,554名
7月4日 7月5日(2回) 7月6日(2回)	(集合研修)(e-learning)医療安全必須研修 「医療安全3つの柱」 講師:上尾中央総合病院 特任副院長 長谷川剛	愛媛ホスピタルパートナーズ、 協力企業	37名 85名 84名
10月24日	新規採用看護職員第III期研修 インシデントレポートKYT チーフリスクマネジャー 重藤美幸	新規採用看護師 (講師・担当者含む)	65名
11月11日～ 1月11日	(e-learning)医療安全必須研修 医療安全の基本を知る 「最近の医療安全」「取り違え」 講師:上尾中央総合病院 特任副院長 長谷川剛	医師、看護師、 メディカルスタッフ	1,523名
11月29日(3回) 12月6日(3回)	(e-learning)医療安全必須研修 医療安全の基本を知る 「最近の医療安全」「取り違え」 講師:上尾中央総合病院 特任副院長 長谷川剛	愛媛ホスピタルパートナーズ、 協力企業	102名 89名

■ トピックス研修会

開催日	研修名	対象	参加
6月3日	テーマ「医療ガスの安全管理について」 講師:愛媛ホスピタルパートナーズ 調達/診療支援部門 武藤美嗣	全職員	看護師:58名、臨床工学技士:1名、 社会福祉士:2名、事務:1名、 愛媛ホスピタルパートナーズ:5名
6月6日	テーマ「医薬品の安全な取り扱いについて」「麻薬の取り扱いについて」 講師:薬剤部次長 烏谷政和、薬剤師 宇都本孝夫	全職員	医師:1名、看護師:48名、薬剤師:3名、 臨床工学技士:3名、事務:2名、 愛媛ホスピタルパートナーズ:9名
9月5日	テーマ「大事です!呼吸の観察」 講師:救急科医長 芝陽介	全職員	医師:1名、看護師:60名、 臨床工学技士:6名、事務:2名
10月4日	テーマ「検体容器と検体の取り扱い」 講師:臨床検査技師 精野圭亮、渡邊拓	全職員	看護師:54名、臨床検査技師:8名、事務:2名、 愛媛ホスピタルパートナーズ:6名
11月1日	テーマ「輸液ポンプ・シリンジポンプについて」 講師:臨床工学技士 河野大輝	全職員	医師:3名、看護師:49名、臨床工学技士:7名、 事務:2名、歯科衛生士:5名、 愛媛ホスピタルパートナーズ:10名

2月6日	テーマ「静脈血栓に関する話」 講師:救急科副医長 中城晴喜	全職員	医師:5名、看護師:48名、薬剤師:1名、 臨床検査技師:2名、理学療法士:2名、 作業療法士:1名、事務:2名、 愛媛ホスピタルパートナーズ:1名
1月17日～ 2月28日	(e-learning)放射線診療に係る研修	関係職員	医師:175名、研修医:27名、看護師他:853名、 放射線部:50名、臨床工学技士:23名
2月17日～ 3月18日	(e-learning)MRI安全研修	関係職員	医師:153名、研修医:21名、看護師他:823名、 放射線部:48名、臨床工学技士:23名

4. 2023 年度目標

患者誤認は唯一ゼロにできる目標であり、ゼロにしなければならない最大の課題です。全職員が患者確認行動の習慣化、また患者参加型の確認が定着できるように教育、訓練を継続したいと思います。

5. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 森山昭子. 離床サポートチームの活動～転倒・転落低減に向けて～. 不眠症診療 WEB セミナー. 松山・Web 開催 (2022.3.9)